

病院のお仕事いろいろ



手術看護認定看護師
(手術部)

最新の知識と
技術を持った
根拠ある
看護の実践

手塚信裕(てつかのぶひろ)さん
看護師

何が正しく、患者さんのより安全な手術のために自分自身に何ができるのか…。手術室看護師になって4年目の手塚看護師の中で葛藤があり、当時の上司に相談したところ、認定看護師の道を示され、手塚看護師は手術看護認定看護師を志すこととなりました。採用からずっと手術室で勤務していた手塚看護師ですが、昨年一年間は外科病棟へ異動となり、術前・術後の患者さんをケアするなど貴重な経験ができ、同時に患者さんが術後合併症なく経過するために、手術中の感染予防やDVT(深部静脈血栓)の予防。体の深くにある静脈に血栓ができて胸痛や呼吸困難などを起こす)対策、神経障害予防など介入がとても重要であることを実感しました、と話してくれました。今年の3月からは手術室へ戻り、手術看護認定看護師として活動しています。仕事をする上では、チームメンバーの話をしっかりと聞き、正しい知識を共有することを心がけているそうです。手術室看護師のやりがいは手術チームが一丸となって患者さんに安全な手術を提供し、患者さんが家族のもとへ無事に帰ることであるそうです。今後は、認定看護師による院内教育を行い、最新の知識と技術を持った看護師を育成することを目標としています。また、将来的には『開けた手術室』をテーマに、病棟看護師が入りやすい環境を作っていきたいと語っていただきました。



日本歯科技工学会認定士
(技工室)

新旧の技術を
取り入れた
歯科技工を
目指して

鴨居浩平(かもいこうへい)さん
歯科技工士

鴨居歯科技工士は、日本歯科技工学会認定士を全国最年少の29歳で取得しました。この資格は5年の経験年数の他に学会発表や推薦人が必要になります。取得のきっかけとして、大学病院で働くということはレベルの高い医療を提供する責任があること、自分自身にプレッシャーを与えるため、指標の一つである認定技工士の取得を目指すことになりました。歯科技工士の活躍の場は、民間の歯科技工所が大半ですが、大学病院を選んだ理由は歯科医師や歯科衛生士、患者さんと接する機会があるため、視野が広がると考えたそうです。歯科医師との意見交換や、患者さんの意見は技術の向上に繋がっています。日頃から「歯科技工が作業化しないこと」を心がけ、患者さんの希望に沿えるように、試行錯誤しながら取り組んでいます。今後の取り組みとして、「近年、睡眠時無呼吸症候群に対してマウスピース治療が導入されたように、歯科分野から貢献できる新たな治療法を様々な職種と共に考え、取り組んでいきたい。また、先輩方が積み上げてきた技術に新しい技術を取り入れて誠実に仕事をしていきたい。」と、お話しいただきました。